

工業製品、伝統工芸品などの三次元形状データ取得



3Dスキャナーの一種である 可搬レーザー3Dスキャナー の最近の活用事例について紹介します。

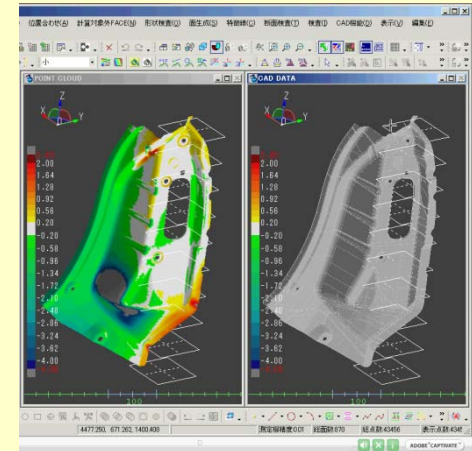
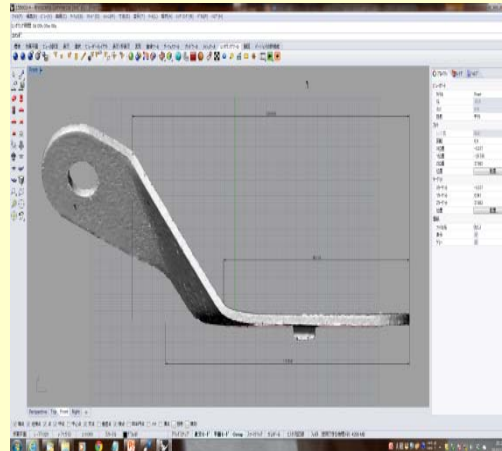
使用装置:可搬レーザー3Dスキャナー (株式会社小坂研究所 VECTRON VMC6646M)

工業製品の三次元形状データの取得事例

●新規開発品の3D-CADデータ作成のため、現行品の形状データを参照・比較。

●製品現物では測定しにくい部分の寸法を測定し、2次元図面を作製。

●製品現物とCADデータとの形状比較。(肉厚分布測定や穴位置検査の結果をカラーマップ表示)



伝統工芸品の三次元形状データの取得事例

●欄間彫刻を金属切削加工により再現するための形状データ取得。



●現行の鋳造品のサイズダウンを図るため、3Dプリントによる原型製作の形状データを取得。

